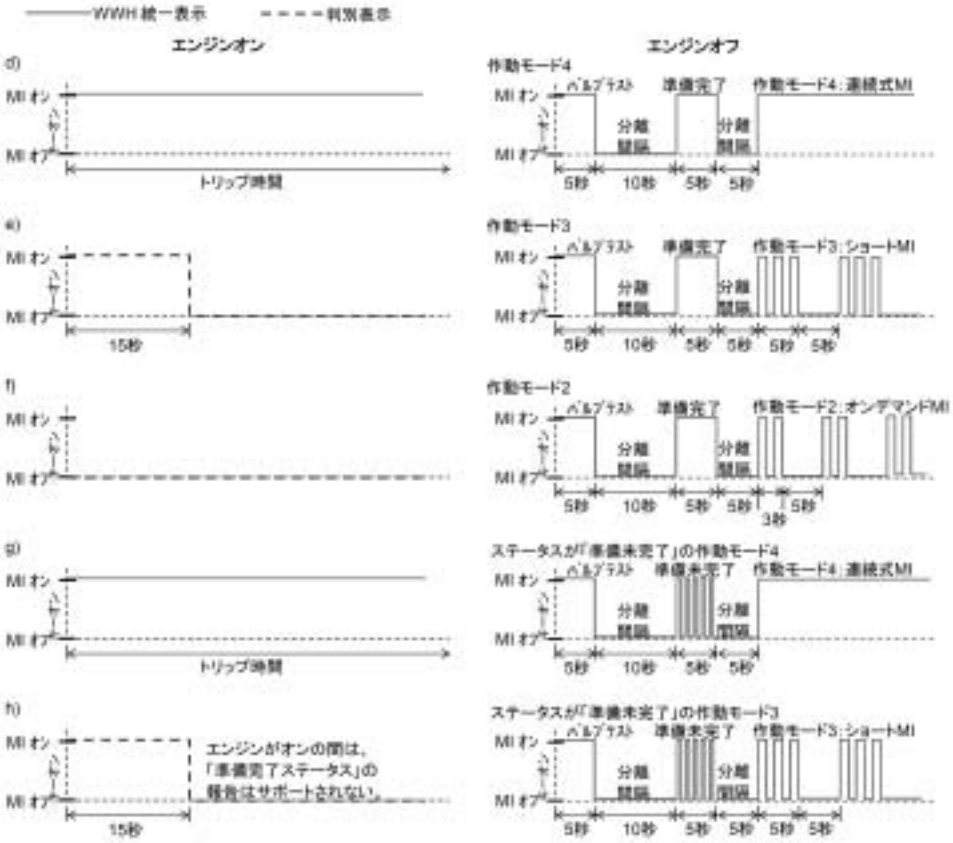
図２　異常表示方法



2.5.3.　エンジンオンにおけるMIの作動

イグニッションキーをオンの位置にして、エンジンをオンにした際に、2.5.3.1.から2.5.3.4.までの規定が満たされていない限り、MIはオフであるものとする。

連続式MIは、ショートMI及びオンデマンドMIよりも優先され、また、ショートMIは、オンデマンドMIよりも優先されるものとする。

2.5.3.1.　クラスA故障

OBDは、クラスA故障を確認した故障コードが保存されると同時に連続式MIの表示命令を出すものとする。

2.5.3.2.　クラスB故障

OBDは、クラスB故障を確認した故障コードが保存された後、次のイグニッションキーオンと同時にショートMIの表示命令を出すものとする。また、OBDは、Ｂ１カウンタが200時間に達する毎に、連続式MIの表示命令を出すものとする。

2.5.3.3.　クラスC故障

自動車製作者等は、エンジンをオンにする前に利用できるオンデマンドMIによって、クラスC故障についての情報を入手できるようにすることができる。

2.5.3.4.　MI非作動条件

監視が行われ、最初に連続式MIを作動させた異常が現在の作動シーケンス中に検知されず、別の異常によっても連続式MIが作動していなければ、連続式MIはショートMIに切り替わるものとする。

ショートMIは、次の連続した3回の作動シーケンス中に異常が検知されず、別のクラスA故障又はクラスB故障によってもMIが作動していなければ、作動を停止するものとする。

2.5.4.　イグニッションキーオン及びエンジンオフ時のMIの作動

イグニッションキーオン及びエンジンオフ時のMIの作動は、次の２つのシーケンスで構成する。この場合において、２つのシーケンスの間には、MIがオフである時間が５秒あるものとする。なお、エンジンは、クランキングの段階でオンになるとみなしてもよい。

(a)　最初のシーケンスは、MIが機能していること及び監視対象構成部品のレディネスコードを示すように設計される。また、初回に警報装置が、イグニッションキーがオンの位置に入ってから開始し、その表示機能が通常の完了をした時、又はイグニッションキーをオフにした時のいずれか早い時点で停止するものとする。

(b)　２つ目のシーケンスは、異常が発生していることを示すように設計される。また、２つ目のシーケンスは、エンジンがオンになる、又は車両が動き始める、又はイグニッションキーをオフの位置にするかのいずれか早い時点まで繰り返される。

2.5.4.1.　MIの機能状態及びレディネスコード

MIは、MIが機能中であることを示すために、５秒間、オンを維持するものとする。

MIは、10秒間、オフを維持するものとする。

MIは、全ての監視対象構成部品のレディネスコードが完了状態にあることを示すため、５秒間、オンのままであるものとする。

MIは、監視対象構成部品のレディネスコードが完了していないことを示すため、５秒間、１秒に１回の頻度で点滅するものとする。その後、MIは、５秒間、オフを維持するものとする。

2.5.4.2.　故障の有無

2.5.4.1.のシーケンスの後、MIは、2.5.4.2.1.から2.5.4.2.4.までの作動モードに応じて、一連の点滅若しくは連続点灯によって異常があることを示す又は単一の点滅を繰り返すことによって異常がないことを示すものとする。この場合において、１回の点滅は１秒間のMIオンに続いて１秒間のMIオフから構成され、一連の点滅の後にはMIがオフになる時間が５秒あるものとする。

また、作動モード４は作動モード１、２、３より優先し、作動モード３は作動モード１、２より優先し、作動モード２は作動モード１より優先するものとする。

2.5.4.2.1.　作動モード１―故障無し

MIは、１回点滅するものとする。

2.5.4.2.2.　作動モード２―「オンデマンドMI」

2.5.3.に従ってOBDがオンデマンドMIの命令を出力する場合は、MIは２回点滅するものとする。

2.5.4.2.3.　作動モード３―「ショートMI」

2.5.3.に従ってOBDがショートMIの命令を出力する場合は、MIは３回点滅するものとする。

2.5.4.2.4.　作動モード４―「連続式MI」

2.5.3.に従ってOBDが連続式MIの命令を出力する場合は、MIは連続してオンの状態を保つものとする。

2.5.5.　故障に関するカウンタ

2.5.5.1.　MIカウンタ

2.5.5.1.1.　連続式MIカウンタ

OBDは、連続式MIが作動する間のエンジン作動時間を記録するための連続式MIカウンタを備えるものとする。

連続式MIカウンタは、カウンタをゼロにリセットする条件が満たされない限り、１時間の分解能で２バイトカウンタによって得られる最大値までカウントし、その値を保持するものとする。